

# 骨・角・牙の道具

はじめに 鳥浜貝塚は、三方上中郡若狭町鳥浜字高瀬に所在する、縄文時代草創期・早期・前期の低湿地性の遺跡です。遺跡が営まれた場所は、現在、鱒川と高瀬川が合流する地点一帯の標高1m～数mの地下に埋まっていますが、およそ6000年前の当時は、湖のほりでした。

地中にあった鳥浜貝塚は、大正14年から昭和4年にかけて、鱒川の付け替え工事で掘削が行われた際に、見つかりました。その後、1962年(昭和37)から1985年(昭和60)にかけて、河川改修などの工事にもない、10次にわたる発掘調査が行われ、様々な生活残滓が発見されました。通常なら腐って形が残らない動物質や植物質の遺物までも、良好に保存されていました。



写真1 鳥浜貝塚の位置

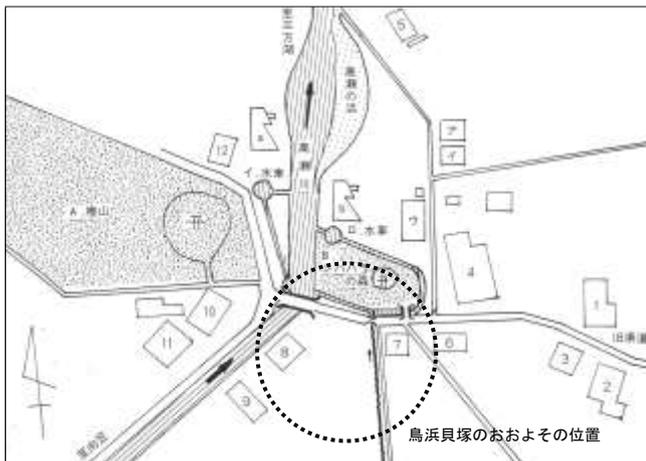


図1 鳥浜貝塚周辺の地形模式図(大正3年以前)

骨・角・牙の道具 良好に保存されていた動物質の遺物の一つに、骨・角・歯牙・貝殻を素材として作られた道具があります。これらを‘骨角器’<sup>こつかくき</sup>と呼んでいます。鳥浜貝塚からは、1975年から1985年にかけての発掘調査で、およそ1,500点の骨角器が見つかっています。

骨角器には、生産用具と装飾・呪術用具<sup>じゆじゆつ</sup>と思われるものがありますが、そのどちらか分からないものもあります。鳥浜貝塚の骨製の生産用具には、刺突具(ヤス先)<sup>しとつぐ</sup>、骨針(縫針)<sup>こつしん</sup>などがあり、骨製の装飾・呪術用具には、櫛(未成品)、髪飾り、垂飾り<sup>たれかざ</sup>があります。このほか、へら状のもの、指抜き状のものなどがあります。また、歯牙製品には垂飾り、鹿角製品には鹿角斧(掘り具)<sup>ろっかくふ</sup>、釣針、装飾品があり、貝製品には腕輪や装飾品と思われるものがあります。

鳥浜貝塚で最も数が多い骨角器は、刺突具(ヤス先)で、全体の半数以上を占めています。刺突具は、シカの長くてまっすぐな中手骨<sup>ちゆうしゆこつ</sup>や中足骨<sup>ちゆうそくこつ</sup>を利用して作られているようです。縄文時代前期に、この骨製の刺突具が使われるようになると、数条の細かい溝を磨り面<sup>す</sup>としている砥石<sup>といし</sup>が出現します。刺突具を砥いだ石だと考えられます。

また、鳥浜貝塚では前期中葉に、網のおもりと考えられる石錘<sup>せきすい</sup>が減少すると同時に、ヤス先と考えられる刺突具が増加しています。網漁からヤス漁へと、漁の方法が変わったのかもしれませんが。

次いで多い骨角器は、鹿角製品で

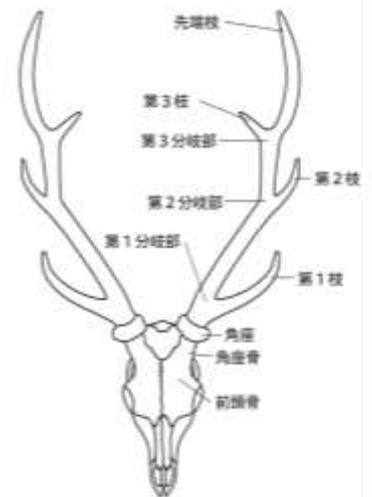
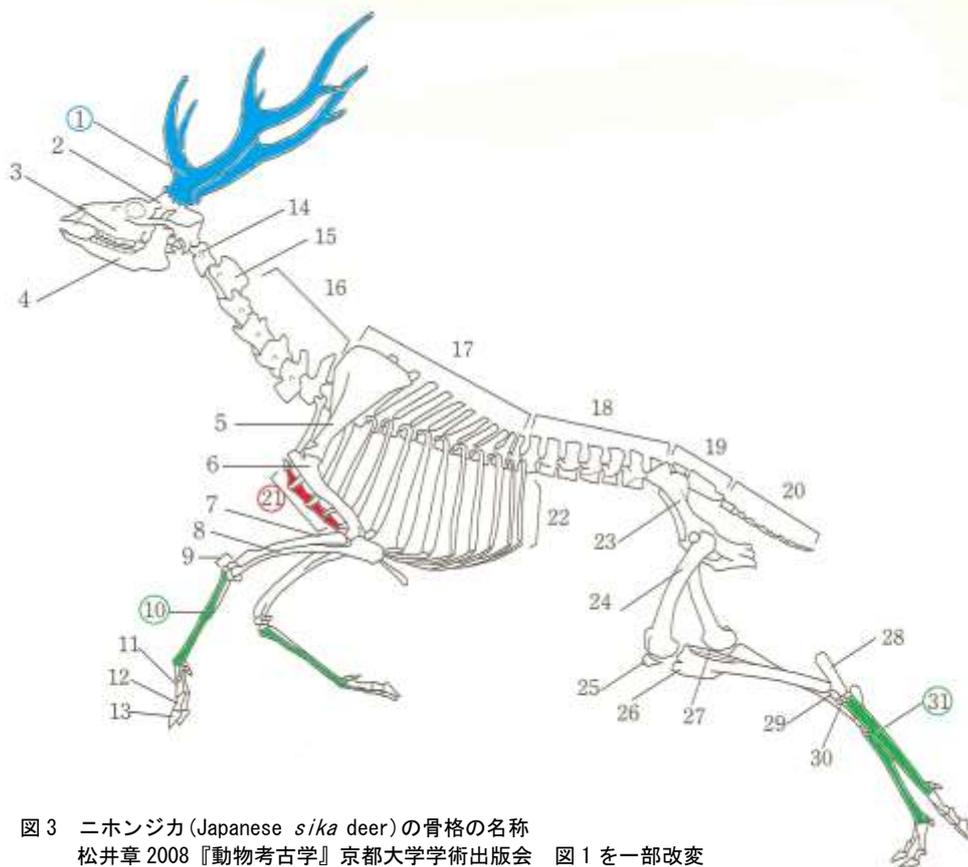


図2 鹿角の名称  
鳥取県埋蔵文化財センター  
2010『鳥取県埋蔵文化財センター調査報告 青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告5』図91を転載



- ① 枝角 Antler
- 2 頭蓋骨 Cranium
- 3 上顎骨 Maxilla
- 4 下顎骨 Mandible
- 5 肩甲骨 Scapula
- 6 上腕骨 Humerus
- 7 橈骨 Radius
- 8 尺骨 Ulna
- 9 手根骨 Carpals
- ⑩ 中手骨 Metacarpal
- 11 基節骨 Proximal phalanx
- 12 中節骨 Middle phalanx
- 13 末節骨 Distal phalanx
- 14 環椎 Atlas
- 15 軸椎 Axis
- 16 頸椎 Cervical vertebra
- 17 胸椎 Thoracic vertebra
- 18 腰椎 Lumbar vertebra
- 19 仙骨 Sacrum
- 20 尾椎 Caudal vertebra
- ⑪ 胸骨 Sternum
- 22 肋骨 Rib
- 23 寛骨 Coxal bone
- 24 大腿骨 Femur
- 25 膝蓋骨 Patella
- 26 脛骨 Tibia
- 27 腓骨 Fibula
- 28 踵骨 Calcaneus
- 29 距骨 Talus
- 30 足根骨 Tarsals
- ⑬ 中足骨 Metatarsal

図3 ニホンジカ (Japanese sika deer) の骨格の名称  
松井章 2008 『動物考古学』 京都大学学術出版会 図1を一部改変

展示品リスト

| 名称                     | 素材                                    | 点数 |
|------------------------|---------------------------------------|----|
| 1 骨針(縫針)               | ニホンジカ<br>ちゅうしゅこつ ちゅうそくこつ<br>(中手骨/中足骨) | 2  |
| 2 髪飾り                  |                                       | 2  |
| 3 刺突具(ヤス先)             |                                       | 3  |
| 4 つりぼり<br>釣針           | ニホンジカ(角)                              | 1  |
| 5 けんじょうせいひん<br>剣状製品    |                                       | 1  |
| 6 たれかざ<br>垂飾り          | ニホンジカ(胸骨)                             | 2  |
| 7 ヘラ状垂飾り               | イノシシ(牙)                               | 1  |
| 8 垂飾り(勾玉状)             |                                       | 2  |
| 9 きばせいひん<br>牙製品(スプーン状) |                                       | 1  |
| 10 垂飾り                 | ウサギ(下顎骨)                              | 1  |
| 11 垂飾り                 | カワウソ(歯)                               | 1  |
| 12 垂飾り                 | サメ(歯)                                 | 1  |
| 13 イノシシ                | 下顎骨                                   | 1  |
| 14 ノウサギ                | 下顎骨(左)                                | 1  |
| 15 ノウサギ                | けいこつ<br>脛骨(左)                         | 1  |
| 16 カワウソ                | 下顎骨(右)                                | 1  |
| 17 カワウソ                | じょうわんこつ<br>上腕骨(右)                     | 1  |

※1~12は重要文化財

す。用途が分かっているものでは、シカの角の分岐した部分を利用した鹿角斧があります。第1枝を鍬の先のように土に入れ、根茎類などを掘りおこす道具として使っていたのかもしれない。

主な参考文献

森川昌和 1979 「第6節 骨角器、貝製品」『鳥浜貝塚—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 1—』 福井県教育委員会

上野晃 1984 「3. 鳥浜貝塚周辺と鱒川新設以前の地形」『鳥浜貝塚 1983年度調査概報・研究の成果—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 4—』 福井県教育委員会・福井県立若狭歴史民俗資料館

金子浩昌・忍沢成視著 1986a 『骨角器の研究 縄文篇Ⅰ 考古民俗叢書〈22〉』 慶友社

金子浩昌・忍沢成視著 1986b 『骨角器の研究 縄文篇Ⅱ 考古民俗叢書〈23〉』 慶友社

平成 27 年 7 月 18 日 発行  
 発行 福井県立若狭歴史博物館  
 住所 〒917-0241 福井県小浜市遠敷 2-104  
 電話 0770-56-0525